

(2) 障がい者雇用優良事業所

○宮崎FCLコンポーネント株式会社（日南市）

業種：電気機械器具製造業（車載・通信・民生用リレーの製造）

従業員：329人



1973年（昭和48年）株式会社宮崎テックとして日南市にて操業開始。その後社名を「宮崎富士通コンポーネント㈱」～2024年に社名を「宮崎FCLコンポーネント株式会社」と改称。電子部品「リレー」は、製造工程で100ミクロンのホコリが付着するだけで導通しなくなる精密部品で車載用リレーや新幹線用リレーの認定を受け、様々な国内外の機器を支えるキーデバイスのメーカーとして、社会的にも信頼感のあるものづくりに取り組んでいる。

雇用障がい者数は、身体障がい者3名（重度3名）知的障がい者2名（重度1名）精神障がい者2名、合計7名在籍しており、雇用率は、R7年 3.34%、勤続5年以上の割合は85.7%と非常に高い。

障がい者の採用は、主に障がい者就業・生活支援センターや特別支援学校からの紹介が多いが、一般高校からの採用もある。採用前に必ず事前見学を行い、場合によってはお母さんも一緒に見学いただいている。その後2週間のトライアルを行い、本人の特性にあった業務に配置するようにしている。入社後1年は、所属長と毎日業務日誌のやり取りを行い、日々の様子を把握するようにしており、その中で何かあれば総務と連携し支援・管理するようにしている。

障がい者の職務内容は、身体障がいで聴覚の障がい者の業務内容は、事務局での文書管理などの事務作業業務。車いすの方は、パソコンでCADを使い、製品を作る機械のライン設備の設計業務などに従事している。知的障がい者は、工場内での段ボール組立と製品の梱包、資材の移動・製品の運搬業務。精神障がい者は、事務作業や現場での検品などのチェック業務に従事している。

模範となる取組として、当該社は、月・水・金の週3回、常勤の看護師が在籍し、3ヵ所ある工場内をローテーションで巡回し、その中で日常会話によって障がい者とコミュニケーションをとって状況把握をしている。会社には直接話せない日頃の仕事の状況や体調のこと、心配なことなど様々な相談を看護師は受け止めており、社内の「よろず相談」的な業務を担っている。このことによって大きな問題になる前に小さな段階で把握でき、早期に問題に対応するようにしている。その他に、年2回の定期的な面談を実施し、業務に対する理解度や適性などを確認しながら、半年ごとの振り返りや現状について確認し、必要に応じて部署を見直し職務を変更するなどの対応を行っている。また業務以外の心身面の体調のことなどは、常勤看護師と定期的な面談や産業医とも連携し相談対応を行っている。職場配置は、出来る限り少人数（8人くらいのチーム）の部門で、周りの社員の目の届く範囲の業務に配置し、日頃から職場での声掛けを行い、必要に応じて業務指導・教育・生活指導のお母さんのような世代の方を個別に付け、マンツーマン的な形で対応している。

このように障がい者の職場環境や支援体制の整備構築に前向きに取り組んでいる優良企業である。